

研修医通信

平成28年2月9日 第63号

松野将宏（市立四日市病院）

三重県伊勢出身の自分にとっても、紀南の方に来るのは初めてでした。そして、紀南病院での1か月間の地域医療研修はあっという間に終わりました。自分の研修病院以外の病院での研修は初めてであり、カルテの使い方や病院のシステムなど戸惑うことはたくさんありましたが、温かいスタッフのみなさんに見守られ順調に研修することができました。入院患者さんの病棟管理を沢山勉強することができ、非常に勉強になるとともに、自分の経験や力のなさを痛感しました。また、離島の診療所での研修や地域の住民の方たちとのミニタウンミーティングなど四日市では味わえない独特の研修もあり充実した日々で、患者背景をしっかりと考えて今後の治療方針を考えていく重要性を学びました。この姿勢は、地域医療だけでなくどこで研修していても重要な姿勢だと感じています。1か月間という短い間でしたが、ありがとうございました。この研修で学んだことを今後の医師人生に生かしていけるように頑張っていきたいと思います。



廣瀬薫（東京大学医学部附属病院）

紀南病院で1-3月の間に研修させていただいております研修医の廣瀬です。今回このような機会をいただきましたので、紀南病院に来て1ヶ月で感じたことを書こうと思います。私は東大病院で2年間研修するプログラムだったので、市中病院に出るのは今回が初めてでした。大学病院との違いは多々ありますが、組織がコンパクトなので治療がさくさく進んでいくなあという印象を受けました。紀南に来るまであまり情報がなかったので、働いている先生方に自治医大卒業が多いということにも驚きました。熱心な先生方が多く、チームが違っていつも気にかけて下さり、医学はもちろんそれ以外のことも多くのことを学ばせていただいています。コメディカルの方々は親切な方が多く、診療を効率良く進める上で非常にありがたいと感じております。これまで紀南に来た先輩や同期の話聞く機会がありましたが、個人的には数ヶ月いた方がより楽しめて多くのものを得られるのではないかと思います。大学病院にいたら症例報告するような症例もいくつか経験させていただき、大変勉強になりました。また初めて診療所を訪れましたが、レントゲン読影の技術やマルチな診療能力に驚きました。メディカルラリーについても紀南特有の連帯感と言いますか、医療関係者みんなで医療を盛り上げていこうという気概を感じます。コメディカルの方との距離が近くなる良い機会だと思えます。あと2ヶ月あるのでこの辺りで終わろうと思いますが、研修医最後の3ヶ月をここで過ごせて嬉しく思います。カフェがないのが唯一つらいところですが、近くにピネもあり慣れると思ったより暮らしやすいです。色々ご迷惑をおかけすることも多いですが、これからもよろしくお願ひします。

横山達士（東京大学医学部附属病院）

二ヶ月弱、大変お世話になりました。皆様に良くして頂き、始めは友人もおらず寂しくも感じておりましたが、こうして終わってみると紀南病院の皆様とお別れするのが名残惜しく存じます。心より感謝申し上げます。前回（12月分）の研修医新聞では紀南病院にて学ばせて頂いたことを書かせて頂きました。恐縮ですが、今回は私が今後やりたいことを書かせて頂ければ幸いです。私は2016年4月より、臨床を終了し大学院生として研究を始めます。臨床はやりがいがあり、興味深く、多くの人と関わり、素晴らしい分野であると研修を通して心底まで感じました。自分の能力や努力が他人の人生に影響するという感覚。「病気を治すのではなく、患者を治す」という教えの意味。それは、ドライに付き合いがちな大学病院よりも、地域と人に関わる紀南病院にてより強く感じました。しかし、治らない病気は依然たくさんあります。認知症が改善することはないし、脳梗塞も固定してしまえば、動かない足が再び動くことはありません。私の祖父が多系統萎縮症で閉じ込め症候群となっていることもあってか、決して目を背けてはいけないテーマなのだと思います。「病気を治すのではなく、患者を治す」という言葉には、勿論「患者を包括的に支える」という素晴らしい意味が込められています。しかし、難治性疾患に対する諦めも同時に感じてしまうのです。そして誰かが「病気を治す」ことを試みる必要があります。研究者の道は過酷と言われていています。地味であり、金銭的にも十分な収入が得られるとは言えず、競争は激烈です。でも私は、その意味で「病気を治したい」と考えています。私のこの思いは、これまでの患者との出会いに支えられています。くさい文章となってしまいましたが、今後とも、どうぞよろしくお願ひ致します。



松波山水（三重大学医学部附属病院）

紀南病院で研修して2ヶ月になりました。ようやく紀南病院での仕事も少しずつやっていける様になりました。まだ1年目で経験の浅い自分にとって、一般内科としての紀南病院での研修はとても充実しています。様々な疾患を診させていただけるので、毎日新しい知識を詰め込むのに必死です。5ヶ月間に及ぶ紀南病院での研修は今後の研修において、自分の力をつける大切な時期だと考えています。4月になると1年目研修医から2年目研修医になります。デキる研修医と言ってもらえるように、今学べることは全て身につけていきたいと思っています。もうちょっとで紀南病院での研修も半分になるところですが、今後よろしくお願ひ致します。メディカルラリーも頑張ります！